

本書の読み方

本書は、パソコンを初めて使う人やキーボード操作がうまくいかない人のために、キーボードの使い方と文字入力の方法を豊富な図版でわかりやすく紹介しています。キーボード操作はパソコンを使ううえで基本となりますから、速さよりも正確さが大切です。この1冊に、ひらがなや漢字の入力から文書作成までの操作をまとめました。ローマ字入力、かな入力のどちらの方法も解説しています。ゆっくりで構いませんので、慣れるまで何度も繰り返して練習しましょう。

かな対応表
キーを押すと入力できる文字を示します。子音と母音の組み合わせの場合は、子音のキーを押してから母音のキーを押します

キーボード
入力に使うキーの場所を色で示しています

練習問題
ここで学んだ入力操作を応用した練習問題です。キーボードの位置や入力の手順を復習しましょう

例題
ここで学んだ入力操作の例題です。番号の順番にキーを押していきます。キーを押した状態が次の画面となります

| キー | 入力できる文字 |
|----|---------|
| A | あ |
| I | い |
| U | う |
| E | え |
| O | お |

| かな | ローマ字 |
|----|------|
| あ | A |
| い | I |
| う | U |
| え | E |
| お | O |



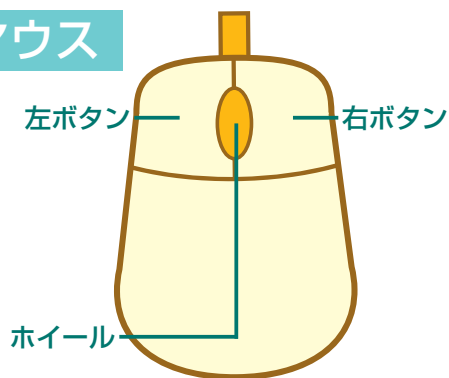
マウス／パッドの使い方と本書の表記

マウスは、パソコンにさまざまな指示を伝えるための装置です。ノートパソコンでは、マウスの代わりに本体のパッド（タッチパッド）を使うこともできます。ここでは、マウス／パッドの基本的な操作方法を紹介します。

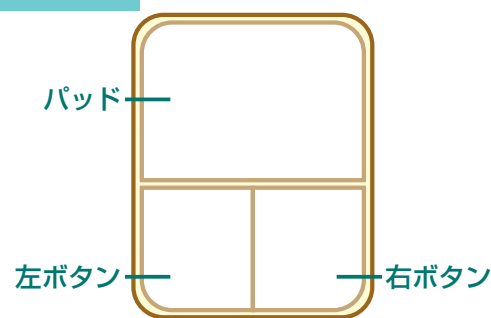
マウス／パッドとは

マウスには、左ボタンと右ボタンが付いています。ボタンを押すことで、ファイルを開いたりメニューを表示させたりできます。2つのボタンの間にあるホイールは前後に回転し、画面の表示範囲を変えたりできます。パッドには、指でなぞるためのパッド本体に加えて、左右のボタンが付いています。


マウス



パッド



基本操作

ウィンドウズを起動すると、画面上に矢印形のマウスポインタ () が表示されます。マウスポインタは、マウスやパッドの操作で画面上を移動します。

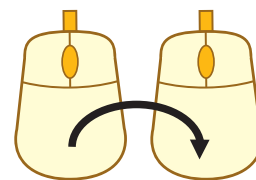


マウスポインタ



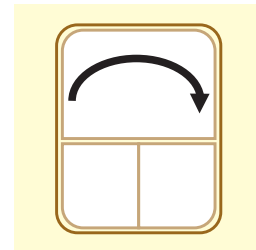
マウス

机などの上をすべらせるように動かすと、その動きに合わせて画面上のマウスポインタが移動する



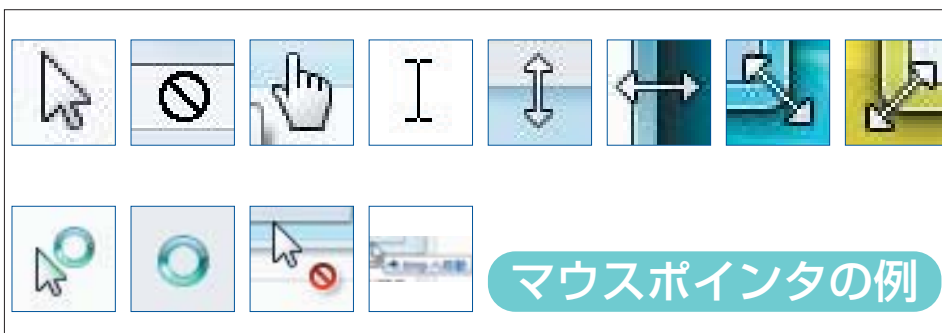
パッド

パッドの表面を指でなぞると、その動きに合わせて画面上のマウスポインタが移動する



マウスポインタ

マウスポインタは、マウスやパッドの動きに合わせて画面上を移動する、矢印などのマークのことです。矢印以外にも、画面上の位置や状況によってさまざまな形になります。慣れてくると、マウスポインタの形から、そのとき、その位置で実行できる機能がある程度判断できるようになります。



マウスポインタの例

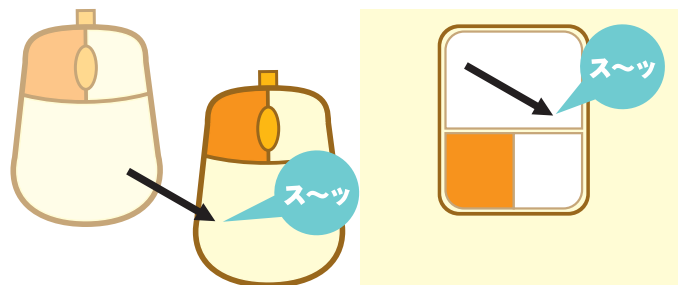
ドラッグ

①左ボタンを押し…



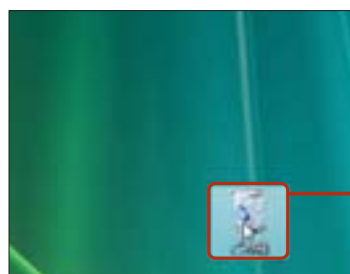
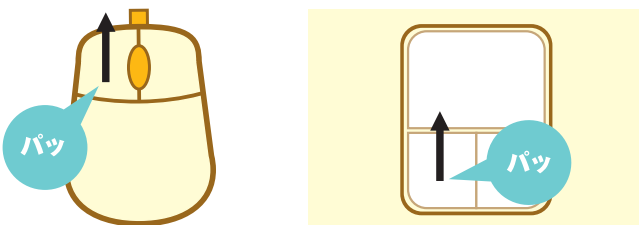
① ここにマウスポインタを合わせ、左ボタンを押し続ける

②マウスボタンを移動して…



② そのまま左ボタンを離さずに、マウスポインタを移動する

③目的の位置で左ボタンを離す

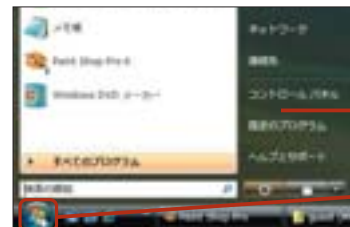
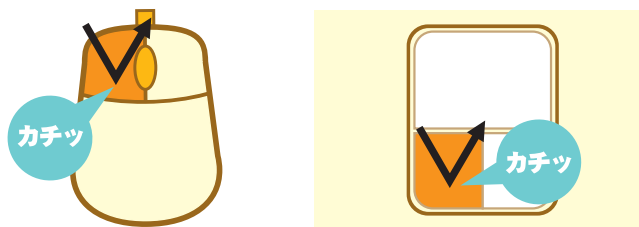


③ 左ボタンを離す

④ ごみ箱の絵が移動する

クリック

左ボタンを押してすばやく離す

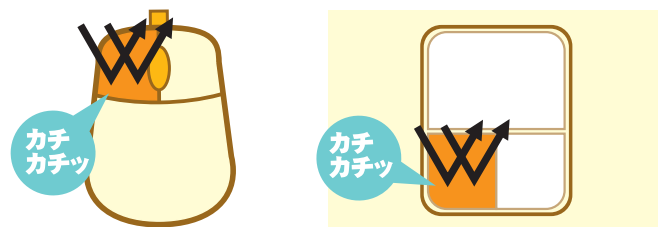


② メニューが表示される

① ここにマウスポインタを合わせてクリック

ダブルクリック

左ボタンをすばやく2回続けて押す

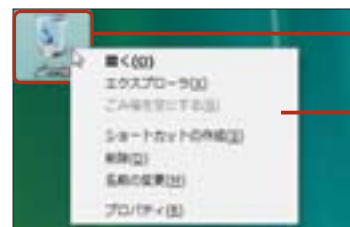
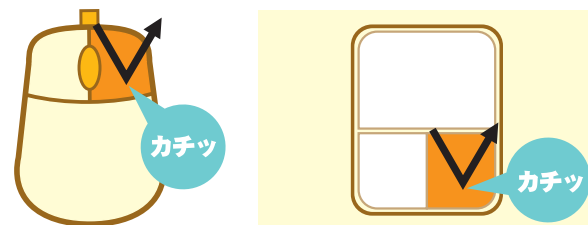


① ここにマウスポインタを合わせてダブルクリック

② ウィンドウが表示される

右クリック

右ボタンを押してすばやく離す



① ここにマウスポインタを合わせて右クリック

② メニューが表示される



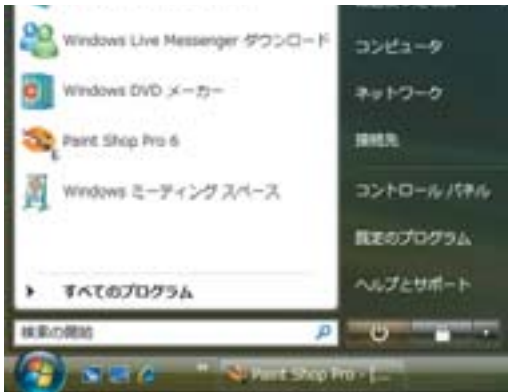
デスクトップでのマウス操作

1 回左ボタンを押すことを「クリック」、2 回押すことを「ダブルクリック」ということがわかったら、次は実際にデスクトップでどのようなときに使うのかを紹介しましょう。

ウィンドウズを起動すると、左下に丸いボタンが表示されています(1)。このボタンを、「スタート」ボタンといい、各アプリケーションやツールなどを起動させるとき、まず最初にクリックすることを意味します。前ウィンドウズのXPでは、ボタンに「スタート」と明記されていましたが、新バージョンのVistaでは、丸のデザインだけになりました。

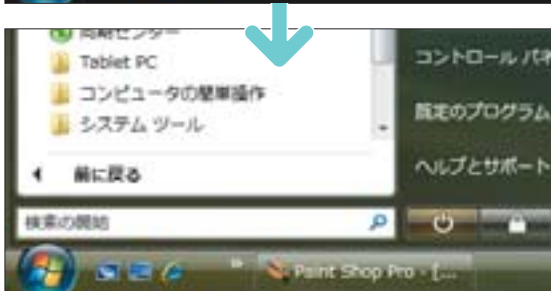


1 ウィンドウズを起動すると、標準で一番左下に [スタート] ボタンが表示されます



2 [スタート] ボタンをクリックすると、画面下から上にかけて、登録されているメニューが表示されます

ると、メニューが画面に表示されます(2)。メインとなるアプリケーションは、ここで表示されるアイコン(絵)をクリックすれば、起動することができます(3)。表示されたメニューに、起動したいアプリケーションがない場合は、「すべてのプログラム」をクリックします(4)。あとは、表示されたアイコンからカテゴリやプログラム名を選び、クリックすれば起動します。



4 [すべてのプログラム] をクリックすると、インストールされたすべてのツールを選択できます



3 そのままマウスポインタを移動させると、アプリケーションを選択でき、クリックすると起動します

クリックすると、はっきりと四角で囲まれて、ファイルが選択されたことを表します(5)。そのファイルをダブルクリックすると、表計算やワープロソフトのデータなら、そのままアプリケーションが起動して、そのファイルを開くことができます。一度マウスの左ボタンを押した



6 1回クリックしたまま、左ボタンを押しっぱなしでマウスを移動することを「ドラッグ」といいます



5 デスクトップ上のファイルをクリックすると、ファイルを選択できます。ダブルクリックすると、アプリケーションを起動して、そのファイルを開くことができます

まま、違う場所やフォルダの上にマウスを移動させてドラッグ&ドロップすると、そのファイルを移動することができます(6)。このように、クリックとダブルクリック、ドラッグ&ドロップは、表示される画面によって機能がいろいろと設定され、使いやすくなっているのです。

キーボードの仕組みを 知っておこう

第1章

キーボードはパソコンに指示を与えたり、文字やデータを入力するために必要な周辺機器です。キーがたくさん並んでいるため、最初は操作に戸惑うと思いますが、まずはキーボードに慣れることから始めてみましょう。

- キーボードはさまざまなキーの集団 8
- キーボードの役割を知ろう 10
- 文字の移動や編集に使うキー 12
- ノートパソコンのキーボード 14



キーボードはさまざまなキーの集団

キーボードを見てみよう

たくさんあるキーがあるキーボードをよく見ると、アルファベットやひらがなが書かれている「文字キー」と、ほかのキーと組み合わせ使ったり、数字を入力するための特殊な役割を持つキーの2つに大きく分けることができます。

文字入力は文字キーで

それぞれのキーには文字や記号が表記されています。この部分を「キートップ」と呼びます。その中でキートップに文字や記号が表記されているものを「文字キー」といいます。文字キーは、キーボードの中央部分に集中しており、入力するときに必要なキーを押すと、その文字が画面に表示されます。

キーの上部には、ひらがな、アルファベット、記号や数字など最大4つの文字や記号が表記されています。これらは9ページで解説する「入力モード」で使い分けていきます。しかし、文字キーは、五十音順やアルファベット順など規則的に配列されていません。これがキー入力を難しくしている要因ともいえます。まずはじめに、名前と役割を覚えておきましょう。

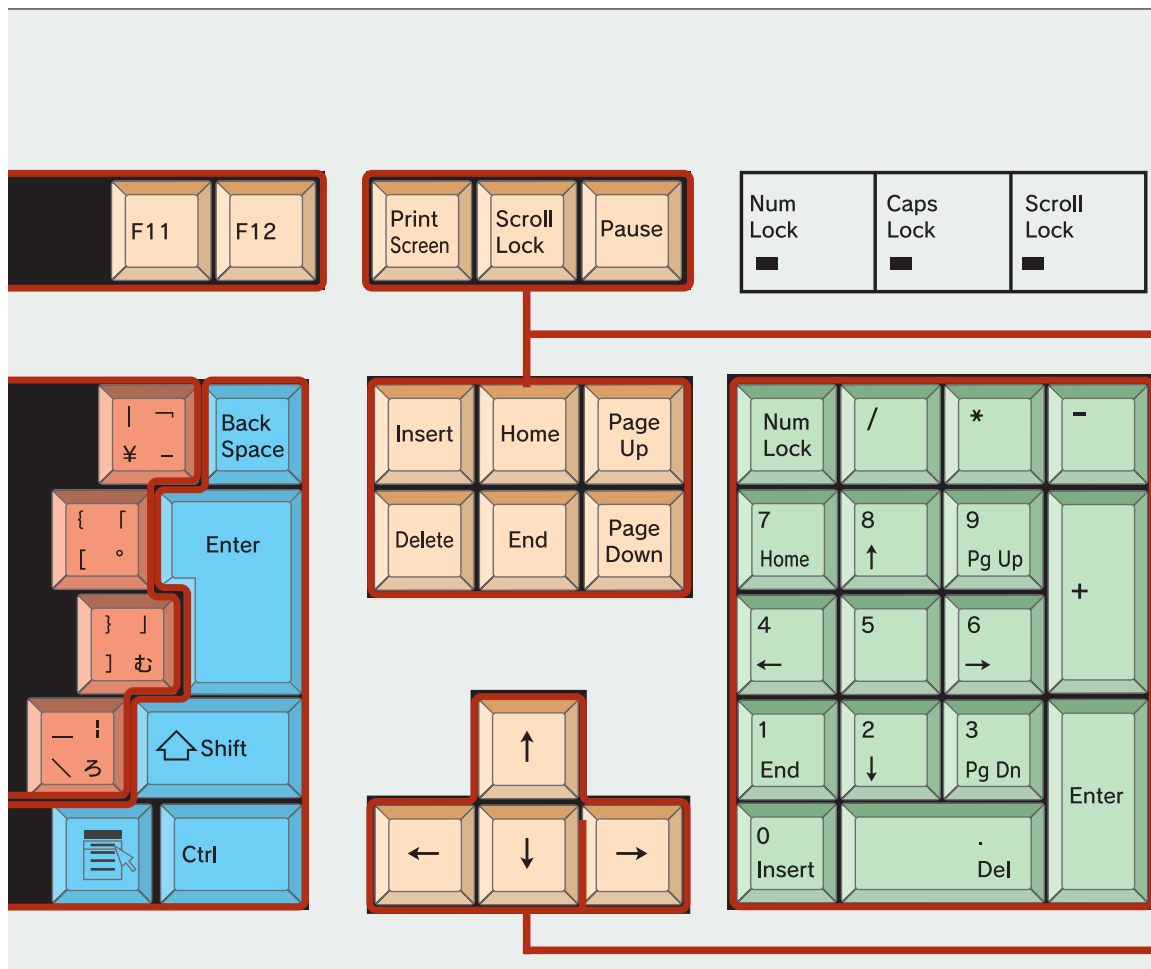
特殊な役割を持つキー

一方、特殊な役割を持つキーは、単独で文字を入力することはできません。ほかのキーと組み合わせ使うことで、大文字と小文字、半角/全角の切り替えや文字の変換、消去、移動、メニューの呼び出しなどの操作が行えます。また、「矢印(カーソル)キー」、数字の入力などができる「テンキー」などもあります。

このように、キーボードは文字を入力する文字キーの周りに、特殊な役割を持つキーが配置されています。キーの位置と使い方は入力の練習を進めるうちに、自然と身に付きます。まずは文字キーと特別な役割を持つキーとの違いをしっかりと覚えておきましょう。

なお、ノートパソコンの場合は、大きさをコンパクトにするため、デスクトップパソコンよりもキーの数が少なくなっており、特殊な役割を持つキーの形状や配置も、若干異なります。ここではデスクトップパソコンのキーボードを使って解説しますが、キーの名前と役割は同じですので、キートップを確認しながら本の通りにキーを押していくことで、確実にキーボードをマスターできます。

キーボードは文字を入力するキーと特別な役割を持つキーの2つに大きく分けられます



文字入力ではなく機能の呼び出しに使います

数字の入力に利用します

カーソルを移動します

入力モードって何？

キーを縦半分で分けてみたとき、左側を「英数モード」といい、アルファベットや記号を入力するときに利用します。一方右側は「かなモード」といい、ひらがなを入力するときに利用します（1）。

ウィンドウズを起動した状態では、英数モードになっています。キーを押すと、キーの上に4つの文字がある場合は左下の文字、2つの場合は左上のアルファベットの小文字が入力されます。なお4つの文字がある場合、上部の文字を出すには「Shift」キーを押しながら目的のキーを押します。「英数キー」を押すと、英数モードとかなモード

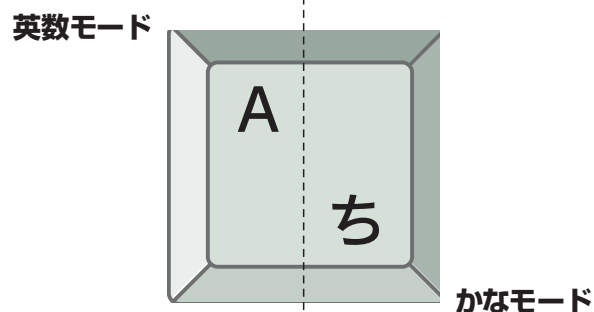
が切り替わります。

全角と半角がある

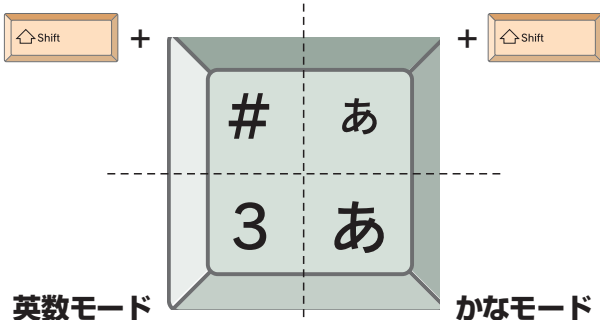
アルファベットの小文字を入力したとき、よく見てみると文字の幅が細くなっているのがわかります。これは「半角」という文字で入力されたためで、ひらがなや漢字1文字ぶんの半分の幅になっています。アルファベットや数字、カタカナは半角文字で入力できます。ただし、半角カタカナはインターネットやメールでは使えないので、注意しましょう。

一方、全角文字では、ひらがなや漢字、アルファベット、数字などを入力できます。詳しい使い方は、ステップ2で紹介します。

1つのキーに2種類の文字がある場合



1つのキーに4種類の文字がある場合



1 右側がかな入力、左側がローマ字入力に利用します。また、キーの上の文字は[Shift]（シフト）キーを使って入力します

ステップ1 キーボードの仕組み





キーボードの役割を知ろう

キーボードには、前のページで解説したように、文字キーと文字を入力する以外の役割を持つキーの2つがあります。ここでは文字を入力する以外の役割を持つキーについて紹介します。

しかし、キーの数が多いため、覚えるのが大変だと思っ人も多いでしょう。そこで、最もよく使うキーやほかのキーと組み合わせるキーなど、キーの役割に応じて分類してみました。その中で、それぞれのキーがどんな名称で呼ばれて、どんな役割を持つかを見てみましょう。

なお、お使いのパソコンによってはキーボードのキーの配置が、本書解説で使用するイラストのものと異なっていることがあります。ここに載っている配置と違っていても、キーの名称と役割は同じですので、特に心配はいりません。

また、ここではキーボードの役割を説明するために、「確定」や「日本語入力システム」などの専門的な用語を一部使用していますが、これらについてはのちほど、実際に例題を使いながら詳しく説明します。

文字の確定や切り替えに使うキー

① Enter (エンター) キー

漢字変換を行っているときに、このキーを押すと文字が確定されます。文章を改行するときにも使います。また、画面上で「～しますか」などのメッセージが表示されたときに、このキーを押すと確定(実行)できます。

② 半角/全角キー

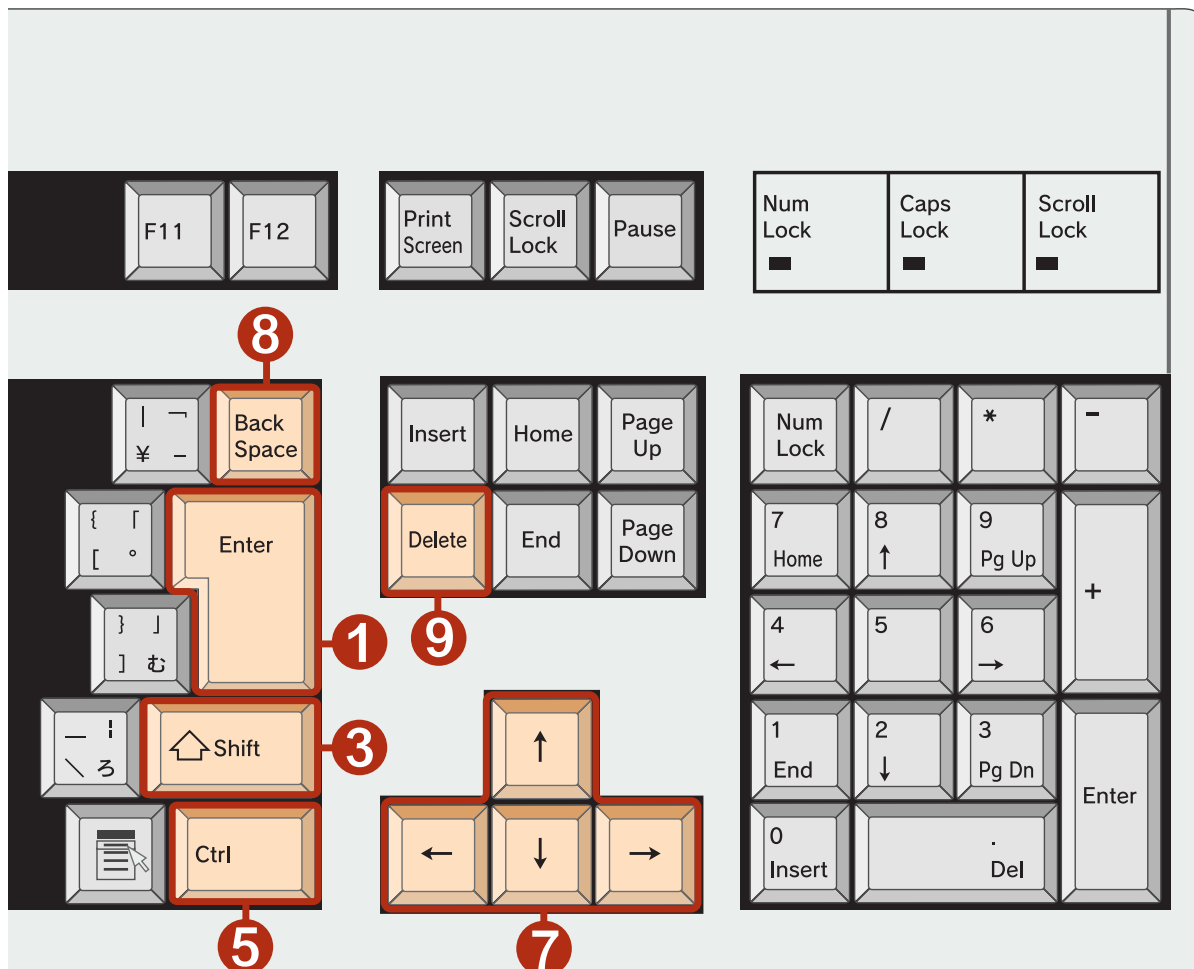
半角、全角文字の切り替えに使います。また、日本語入力システムを呼び出すときにも使います。その場合は、[Alt] (オルト) キーを押しながら、このキーを押します。

③ Shift (シフト) キー

アルファベットの大文字と小文字を切り替えたり、記号を入力するときに利用します。文字キーを押すと通常はアルファベットの小文字が入力されますが、[Shift] (シフト) キーを押しながら文字キーを押すと、大文字が入力できます。かな入力の場合はキー上部の文字が入力されます。

④ Caps Lock (キャップスロック) ・英数キー

アルファベットの入力を小文字にするか、大文字にするかを切り替えるときに使います。[Shift] (シフト) キーを押しながらこのキーを押すと、大文字 (もしくは小文字) 入力の状態に固定できます。戻す場合には、[Shift] (シフト) キーを押しながらこのキーをもう一度押します。



ここではキーボード入力に特に利用するキーを紹介しています

9 Delete (デリート) キー

カーソルがある位置より1文字後ろ(右側)の文字をひとつ削除します。続けて押すと、カーソルの後ろの文字を続けて消すことができます。

10 Esc (エスケープ) キー

直前の操作を取り消したり、ある状態から抜け出すときに使います。入力した文字の確定前にこのキーを押すと文字を消すことができます。

同じものが2つある!?

[Enter] や [Shift]、[Ctrl]、[Alt] などのキーは、キーボードの右側と左側に2つ用意されています。どちらも同じ機能を持っているので、使いやすいほうを押しましょう。また、これらのキーは、同時に複数押すこともあるので、場所を覚えておくと何かと便利です。

ほかのキーと組み合わせて利用するキー

5 Ctrl (コントロール) キー

ほかのキーと組み合わせて特別な働きを実行させるときに利用します。画面操作メニューの横にある()内のキーと組み合わせて使います。

6 Alt (オルト) キー

Ctrl (コントロール) キー同様、ほかのキーと組み合わせて特別な働きを実行させるときに利用します。

文字の移動や削除に使うキー

7 カーソルキー

カーソルをキーに書かれている矢印の方向へ移動させたいときに使います。

8 BackSpace (バックスペース) キー

入力して間違えたときに使うキーです。カーソルの左側にある文字をひとつ消すことができます。また、選択した文字を消したり、続けて押すと、文字を前方向に続けて消すことができます。



ひらがな、カタカナを 入力してみよう

第2章

文字入力で最も基本となるのはひらがなです。漢字を入力する場合もひらがなの入力ができなければ始まりません。ここではカタカナも含め、ローマ字入力、かな入力の2つの方法で入力する方法を紹介します。

- キーボードをまず打ってみよう 16
- 半角アルファベット入力と改行 17
- 日本語入力システムの起動と終了 18
- 日本語入力システムの入力モード 19
- ローマ字入力とかな入力の違い 20
- あいうえおを入力しよう ローマ字入力編 22
- か・さ行を入力しよう ローマ字入力編 23
- た・な・は行を入力しよう ローマ字入力編 24
- ま・や行を入力しよう ローマ字入力編 25
- ら・わ・ん行を入力しよう ローマ字入力編 26
- あいうえおを、かな入力しよう かな入力編 27
- か・さ行を入力しよう かな入力編 28
- た・な・は行を入力しよう かな入力編 29
- ま・や行を入力しよう かな入力編 30
- ら・わ・ん行を入力しよう かな入力編 31
- 間違って入力してしまったら 32



キーボードをまず打ってみよう

これから入力作業を行っていきますが、ここではウィンドウズパソコンに入っている「メモ帳」を使って解説します。メモ帳を起動するには、マウスで「スタート」ボタンをクリックし、「すべての

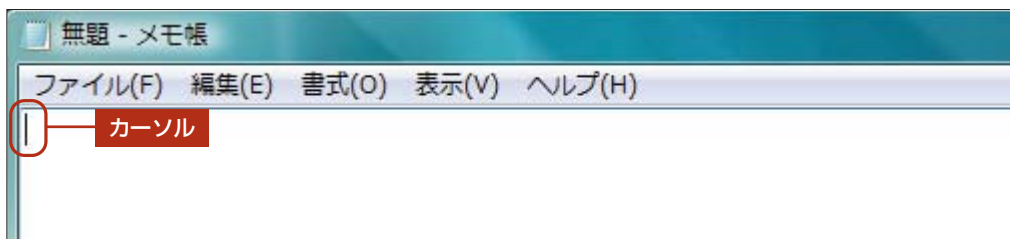
プログラム」をクリックします。メニューの内容が切り替わるので、「アクセサリ」をクリックします。さらに表示が切り替わったら、「メモ帳」をクリックします(1)。なお、最初に「スタート」ボタ

ンをクリックしたときのメニューに「メモ帳」がある場合は、「メモ帳」をクリックすれば起動します。
左上に「無題 - メモ帳」と書かれた新しいウィンドウが開き、ウィンドウの左上に「I」の形をしたカーソルが点滅します。これでキーボードから入力する準備ができました(2)。
では、アルファベットの「A」を入力

してみましょう。「A」のキーの場所は左の(3)の図を参照してください。「A」のキーの上に指を載せ、ちゃんと軽く押すような感じで押して離します。
メモ帳のウィンドウの中に「a」と表示されれば成功です(4)。キーを押し続けると、(5)の図のように「a」がたくさん表示されてしまいます。押し続けたら、間を置かずに指を離すようにしましょう。



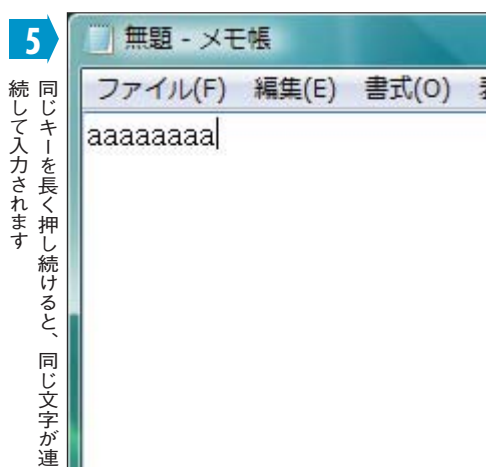
1 [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] → [アクセサリ] の順にクリックして、[メモ帳] をクリックします



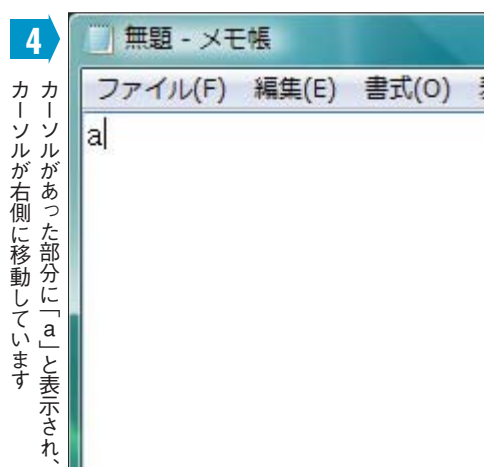
2 ウィンドウの左上で点滅している縦棒を「カーソル」と呼びます



3 「A」キーはキーボードの左側、中段のところにあります。



5 同じキーを長く押し続けると、同じ文字が連続して入力されます



4 カーソルがあった部分に「a」と表示され、カーソルが右側に移動しています



半角アルファベット入力と改行

キー入力の仕方がわかったところで、次に何か単語を打ち込んでみましょう。ここでは例題として、「apple」と入力します。

まず「A」キーを1回押します(1)。次に「P」が2回続きますが、キーを押し続けて2つ入力するよりも、1回ずつ押して離す方が正確です。ここでは「P」キーを2回押します(2、3)。もし、ここで違う文字を入力してしまったら、文字数を多く入れてしまった場合には、「Enter」キーの上にある「Back Space」キーを押して、

余分な文字を削除してください(4、5)。文字の削除や挿入に関しては、32ページで詳しく解説していますので、参照ください。

このあと「L」「E」キーを押すと、画面上に「apple」が表示されます(6、7)。これで「apple」という単語が入力できました。最後に、「Enter」キーを押して改行します(8、9)。
長い文章では「Enter」キーを使って適宜改行を入れると文章が読みやすくなります。



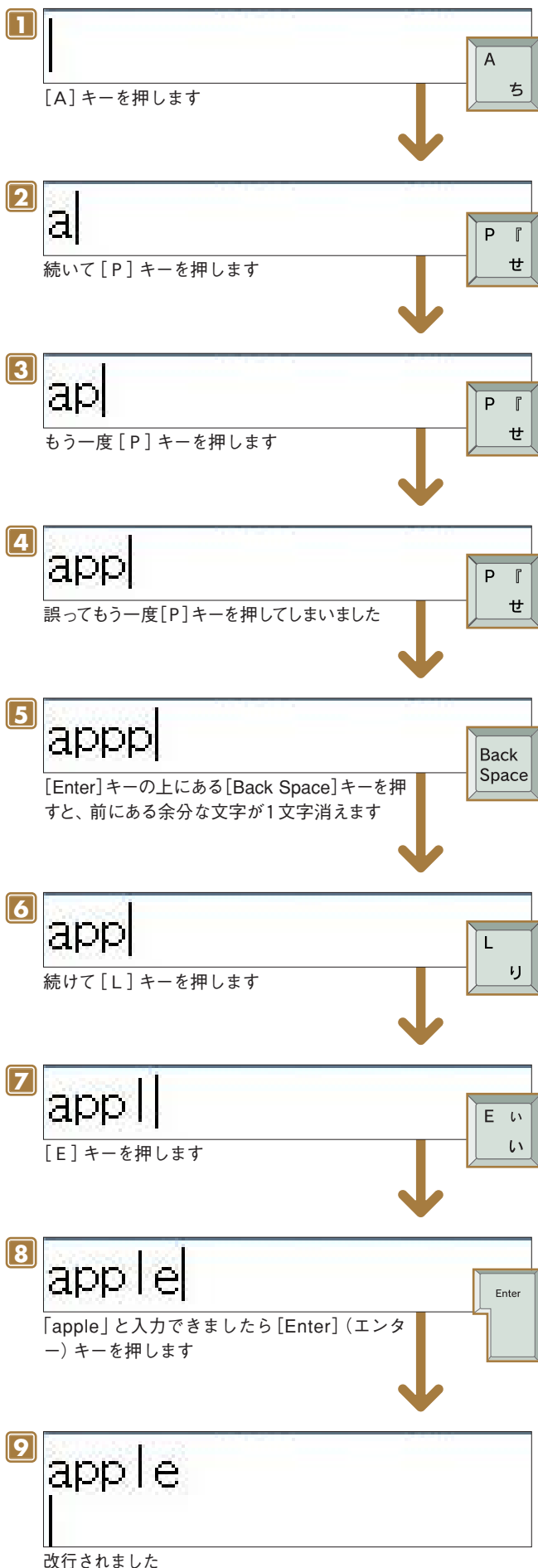
このページで利用する4つのアルファベットのキーは色で示したキーです。キーには大文字が刻印されていますが、実際にキーを押すと小文字が入力されます



ワンポイント

パソコンを起動した状態では、入力は半角アルファベットの入力となります。全角のアルファベットやひらがなの入力については、18ページ、19ページの日本語入力システムで解説しています。

「apple」と入力してみましょう





日本語入力システムの起動と終了

パソコンでひらがなやカタカナ、漢字などの日本語を入力するためには、日本語入力システムを使います。ウィンドウズ Vista には「MS-IME (以下、IME)」という日本語入力システムが標準搭載されています。ここでは、それを使って日本語を入力してみましょう。

半角／全角キーで切り替え

ただし、IME はパソコンが起動したときに、常に日本語変換ができる状態になっていないとは限りません。それを確認するには、IME の状態を示す「IME ツールバー」を見てみましょう (1)。

ウィンドウズが起動した状態では、IME ツールバーは (2) のように、ツールバーの左から2番目のアイコンが、「A」と表示されます。これは日本語変換ができる状態でないことを表しています。入力した文字が、アルファベットそのままの文字が表示されるようになります。

ここで、キーボード左上のほうにある「半角／全角」と書かれたキーを押します。IME ツールバーの左から2番目が「あ」と表示されます。これでIMEが起動した状態になり、日本語入力が

できるようになったわけです。

逆にIMEを終了させたい場合も、「半角／全角」キーを押します。

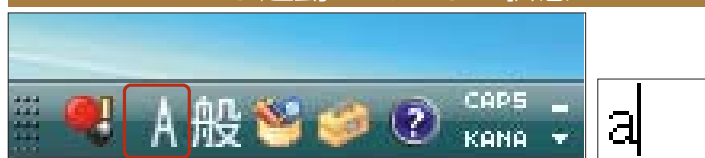
なお、ツールバーが画面上に見当たらない場合は、一度デスクトップ画面の何もないところをクリックしてみましよう。それでも表示されないときは、ソフトを切り替えて文字を入力できる状態になります。

また、画面右下の「タスクトレイ」に隠れている場合、「IME アイコン」をマウスで右クリックし、表示されたメニューから「言語バーの復元」を選択すれば、IME ツールバーが画面上に表示されます (3)。



1 これがIMEの状態を示す [IMEツールバー] です

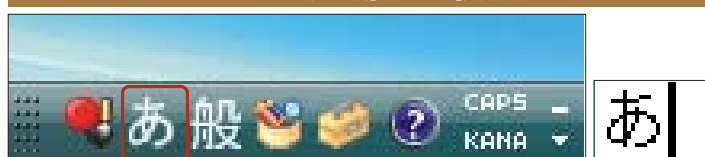
IMEが起動していない状態



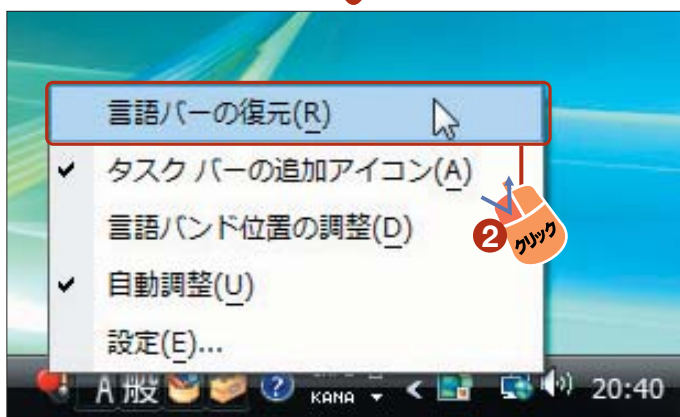
左から2番目に「A」と表示されます。[A] キーを押すと、半角の「a」が入力されます



IMEが起動した状態



左から2番目に「あ」と表示されます。[A] キーを押すと、ひらがなの「あ」が入力されます



3 IME ツールバーが表示されない場合は、①画面右下のタスクトレイの中の「IME アイコン」の形をしたアイコンを右クリックし、②表示メニューから「言語バーの復元」をクリックします

2 上が起動していない状態、下が起動している状態です。「半角／全角」キーを押すと、日本語変換ができるようになります。これをIMEの起動、終了といいます



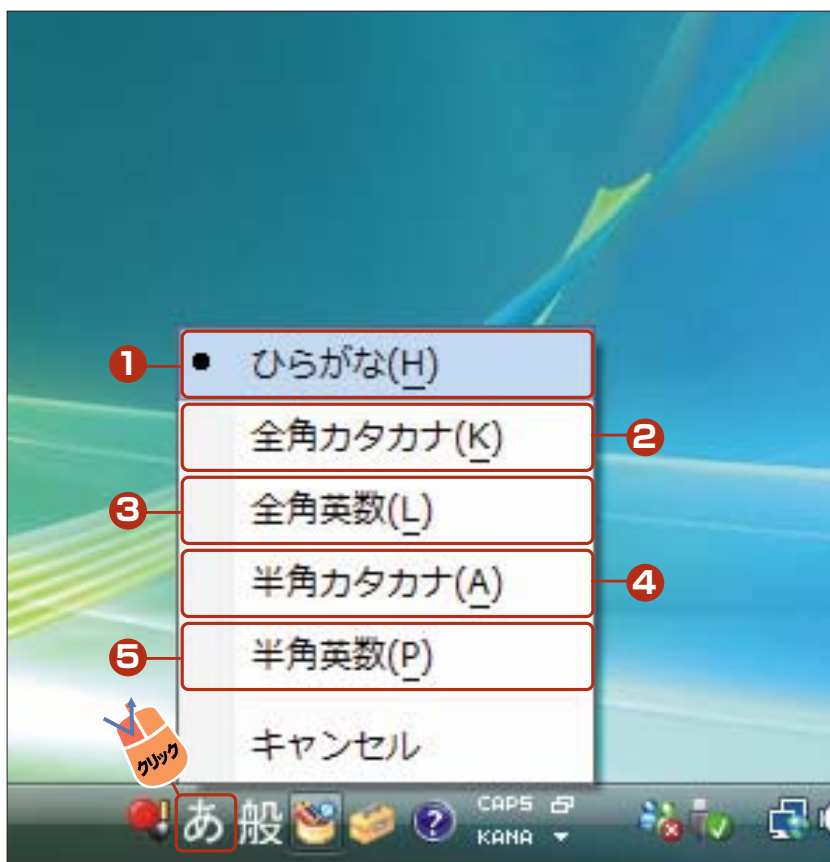
日本語入力システムの入力モード

IMEには、いくつかの入力モードがあります。現在どの入力モードにあるかは、「IMEツールバー」を見るとわかります。「IMEツールバー」の一番左に「あ」と表示されている場合は、全角ひらがなの入力モードであることを示しています。この「あ」の部分をクリックすると、入力モードを切り替えるメニューが表示されます(1)。

試しに、「全角カタカナ」をクリックしてみましょう。今まで「あ」と表示されていた部分が「カ」という表示が変わって、キーボードからの入力を全角のカタカナとして受け付けるようになります。次に、これを「全角英数」にしてみます。今度は「カ」と表示されていた部分が「A」になり、キーボードから入力し

た文字が全角のアルファベットになります。このほかに半角の英数字を入力する「半角英数」と「直接入力」というモードがあります。「半角英数」では、キーを入力して画面に表示される文字はIMEが起動していない状態ですが、全角英数字などに変換することができます。一方、「直接入力」はとIMEが起動していないときと同じです。つまり、キーボードのアルファベットがそのまま入力されます。この入力モードの切り替

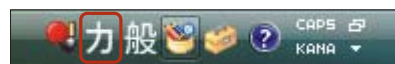
えはスムーズな文字入力を修得する際には重要なポイントです。また、IMEを起動しているときに入力すると、入力した文字の下に破線の下線が表示されます。これは入力した文字を漢字やカタカナなどに変換できる状態で、「未確定」といいます。入力した文字がそのままの状態ではない場合には「Enter」キーを押します。表示されていた下線が消えて、入力が完了した状態で「確定」になります(2)。



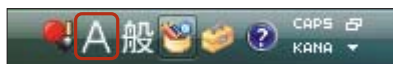
① ひらがな



② 全角カタカナ



③ 全角英数



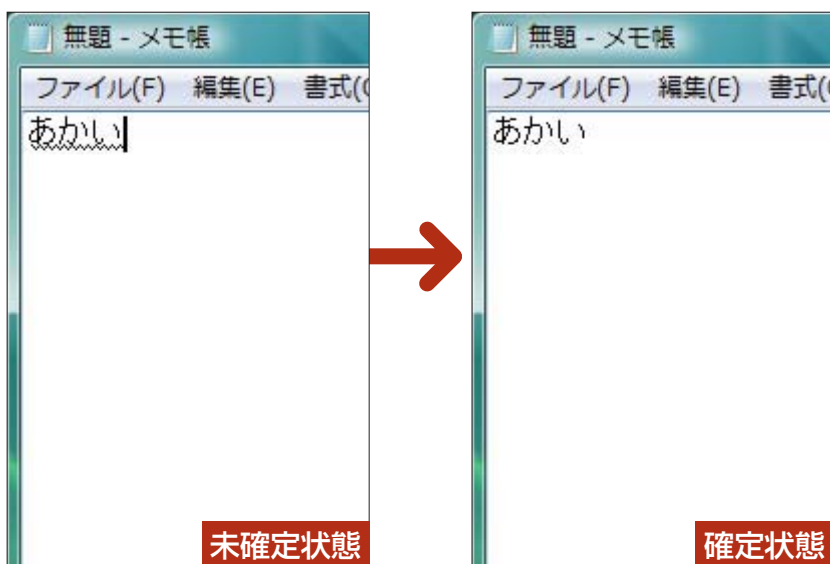
④ 半角カタカナ



⑤ 半角英数



1 [あ]と書かれている部分をクリックすると、入力モードの変更ができます



2 下線が付いている状態では、キー操作によってカタカナやアルファベット、漢字への変換ができます。このことについては、ステップ4で詳しく解説します